

国際バカロレア (IB) ディプロマプログラム (DP) 科目概要

「個人と社会」：「経済」— 標準レベル (SL)

2022年第1回試験 — 2029年最終試験

ディプロマプログラム (DP: Diploma Programme) は、16歳から19歳までの大学入学前の生徒を対象とした、綿密に組まれた教育プログラムです。幅広い分野を学習する2年間のプログラムで、知識豊かで探究心に富み、思いやりと共感する心をもつ人間を育成することを目的としています。また、多様な文化の理解と開かれた心の育成に力を入れており、さまざまな視点を尊重し評価するために必要な態度を育むことを目指しています。

DPは、中心となる核(「コア」)を6つの教科が取り囲む構成になっています。生徒は、「言語と文学」(グループ1)と「言語の習得」(グループ2)から現代言語を2言語(または現代言語と古典言語を1言語ずつ)、「個人と社会」(グループ3)から人文または社会科学を1科目、「理科」(グループ4)から1科目、「数学」(グループ5)から1科目、そして「芸術」(グループ6)から1科目を履修します。ただし、「芸術」から1科目選ぶ代わりに、他の教科で2科目選択することもできます。多岐にわたる分野を学習するため、学習量が多く、大学入学に向けて効果的に準備できるようになっています。各教科から柔軟に科目を選択できるため、特に興味のある科目や、大学で専攻したいと考えている分野の科目を選ぶことができます。

通常は、3科目(最大4科目)を上級レベル(HL: higher level)、その他を標準レベル(SL: standard level)で履修します。IBでは、HL科目の学習に240時間、SL科目の学習に150時間を割りあてることを推奨しています。HL科目はSL科目よりも幅広い内容を深く学習します。これらに加えて、「課題論文」(EE: extended essay)、「知の理論」(TOK: theory of knowledge)、「創造性・活動・奉仕」(CAS: creativity, activity, service)の3つの「コア」要素があります。「コア」科目は必修で、DPの理念の中核を成すものです。

DPの科目概要では、コースを構成する4つの主要要素について説明します。

I. コースの説明とねらい

II. カリキュラムモデルの概要

III. 評価のモデル

IV. 問題のサンプル



I. コースの説明とねらい

「経済」は、急速に変化する世界における経済活動の複雑さや相互依存の理解を促す、知的刺激に満ちたダイナミックな科目です。経済理論の中核には、希少性の問題があります。この希少性により、選択が余儀なくされています。「経済」のSLとHLではいずれも、経済理論、モデル、重要概念を使用して、個別市場における生産者と消費者のレベル(ミクロ経済学)、政府と国民経済のレベル(マクロ経済学)、および国同士が相互依存を強める国際的なレベル(グローバル経済)という各レベルで、これらの選択がどのように行われるかを考察します。DPの「経済」では、実社会の6つの問題を考察しながら、生徒が実証的データを使って、これらのモデル、理論、重要概念を探究し、応用できるようにします。生徒は自ら探究することで、実社会の経済事象を説明するうえで経済モデルがもつ価値と限界を認識できるようになります。「経済」を履修する生徒は、9つの重要概念(希少性、選択、効率、公正、経済的福祉、持続可能性、変化、相互依存、介入)を使って実社会の6つの問題に焦点を合わせることで、グローバル市民としての責任ある行動を促す知識、スキル、価値観、態度を育てていきます。

DPの「経済」のねらいは、以下のとおりです。

- ミクロ経済学、マクロ経済学、グローバル経済の分野において、広範な経済理論、モデル、観念、ツールへの批判的な理解を育む。
- 実社会の経済問題や、個人と社会が直面する問題を理解し、それらに取り組んでいくために、経済理論、モデル、観念、ツールを応用し、経済データを分析する。
- 個人と社会の経済的な選択と、経済的な意思決定の相互作用、阻害要因、結果の概念的な理解を育む。

II. カリキュラムモデルの概要

構成要素	推奨される授業時間数
単元1：経済学への導入 1.1 経済学とは何か 1.2 経済学者はどう世界にアプローチするか	10
単元2：ミクロ経済学 2.1 需要 2.2 供給 2.3 競争市場の均衡 2.4 消費者と生産者の利益最大化行動に対する批判 2.5 需要の弾力性 2.6 供給の弾力性 2.7 ミクロ経済学における政府の役割 2.8 市場の失敗 — 外部性と共有資源 2.9 市場の失敗 — 公共財	35
単元3：マクロ経済学 3.1 経済活動を測定するさまざまな方法 3.2 さまざまな経済活動 — 総需要と総供給 3.3 マクロ経済目標 3.4 不平等と貧困の経済学 3.5 需要管理(需要サイド政策) — 金融政策 3.6 需要管理 — 財政政策 3.7 供給管理(供給サイド政策)	40

単元4：グローバル経済	45
4.1 国際貿易の便益	
4.2 貿易保護の種類	
4.3 貿易保護・規制に対する賛否	
4.4 経済統合	
4.5 為替相場	
4.6 国際収支	
4.7 持続可能な経済発展	
4.8 経済発展の測定	
4.9 経済成長・経済発展を妨げる障壁	
4.10 経済成長・経済発展戦略	
内部評価 (IA)	20
3つのコメンタリー (論評) のポートフォリオ	

III. 評価のモデル

DPの「経済」には、4つの評価目標があります。SLで学習する生徒には、次の目標を満たすことが期待されています。

評価目標1：知識と理解

- 特定の学習内容についての知識と理解を示す。
- シラバスのSL・HL共通の学習項目についての知識と理解を示す。
- 時事的な経済問題やデータへの知識と理解を示す。

評価目標2：応用と分析

- 経済学的概念と理論を実社会の状況に応用する。
- 経済データを特定し、解釈する。
- 特定の文脈において、経済的な情報がどう効果的に用いられているかを分析する。
- 内部評価課題にて：「経済」の重要概念とコメンタリーの関係を説明する。

評価目標3：統合と評価

- 経済学的概念と理論を考察する。
- 経済学的概念と事例を用いて議論を構築し、発表する。
- 経済的な情報と理論について論じ、評価する。

評価目標4：適切なスキルの活用と応用

- 適切な経済理論、概念、用語を使用し、構成の整った文書を作成する。
- 経済理論や概念、実社会の問題を説明するために、ダイアグラムを作成し、活用する。
- 報道メディアから適切な抜粋を選び、解釈および分析する。
- 一連の適切なデータを解釈する。
- 数量的に表すテクニックを用いて経済的な関係を見極め、説明し、分析する。

IBについて：IBは、過去50年以上にわたり、質の高いチャレンジに満ちた教育プログラムとしての定評を築いてきました。国際的な視野をもって21世紀の現実の課題に対応することで、より良い、より平和な世界の創造に貢献していくことのできる若者を育成しています。

DPについての詳細は、IBのウェブサイト (www.ibo.org/en/dp) でご覧いただけます。

『指導の手引き』の完全版は、IBのプログラム・リソース・センターからアクセスできるほか、IBストア (store.ibo.org) でご購入いただけます。

DPが大学での成功の素地づくりにどのように貢献するかについては、IBのウェブサイト (www.ibo.org/en/university-admission) をご覧ください。

評価の詳細

評価の種類	評価の形式	時間	最終的な成績に占める割合 (%)
外部評価		3時間	70
試験問題1	シラバスの全単元に基づく自由論述問題	1時間 15分	30
試験問題2	シラバスの全単元に基づくデータ分析問題	1時間 45分	40
内部評価			
ポートフォリオ	シラバスの異なる単元 (導入的な単元を除く) に基づいて、報道記事の抜粋をさまざまな重要概念を用いて分析した、3つのコメンタリーを作成する	20時間	30

IV. 問題のサンプル

試験問題1

- 政府が財の上限価格 (最高価格) を設定する理由を2つ説明しなさい。
- 実社会の例を用いて、上限価格が利害関係者にもたらす影響について論じなさい。

試験問題2

- 貧困サイクルのダイアグラムを用いて、2010年から2015年までのメキシコにおける外国直接投資 (FDI) の純増加がどのように経済発展の向上をもたらしたかを説明しなさい。